

---

## 第 1 章

# 平成 1 7 年の福島県経済の概況

## 第1章 平成17年の福島県経済の概況

平成17年の福島県経済は、個人消費、建設需要に低調さがみられたものの、生産活動は増加基調で推移し、雇用も改善基調にあり、企業倒産も沈静化が進むなど、**緩やかな回復が続いた。**

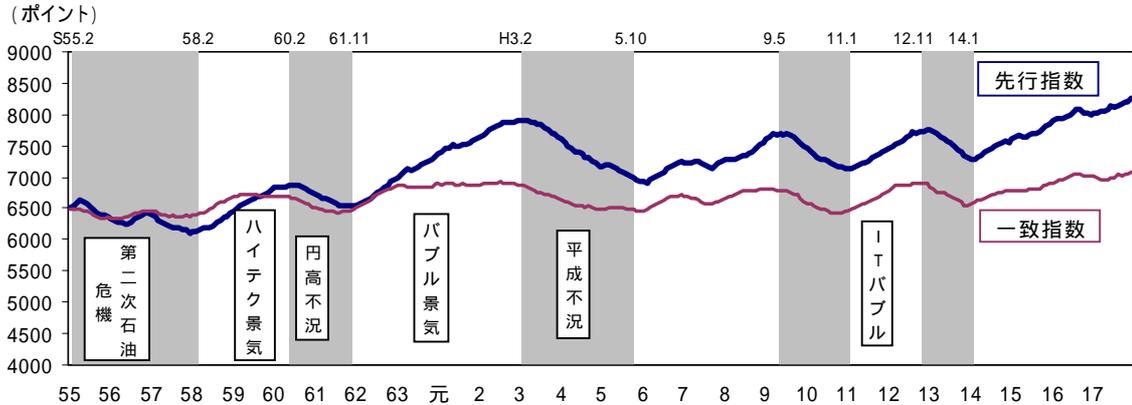
日本経済は平成14年初から景気回復を続けており、その長さは4年近くになるうとしている。

平成17年の経済動向を振り返ると、平成16年後半から平成17年前半にかけて世界的な情報化関連分野の調整等から、輸出、生産を中心に弱い動きとなり、景気は踊り場の状況となった。しかし、平成17年央には、アジア向けを中心に輸出が持ち直し、生産についても情報化関連分野の在庫調整が一巡し改善の動きがみられ、景気は踊り場を脱却し、緩やかな回復を続けた(図1、図2)。

このような中で、平成17年の福島県の県経済を振り返ると、前年からの持続的な持ち直しの動きは、企業の収益や景況感に改善傾向をもたらしたものの、雇用者所得への明瞭な波及までには至らず、個人消費の一部に明るい動きも見られたが、全体としては弱含みで推移した。また、建設需要も公共工事が減少するなど低調が見え、厳しさが残る状況であった。一方、生産活動においては、昨年後半から年初にかけて情報化関連分野での調整等によりやや弱い動きがみられたものの、その後は回復の動きが続き増加基調で推移した。雇用情勢も企業収益の改善が続いていることを背景に、有効求人倍率、新規求人倍率ともに改善基調にあった。企業倒産についても、負債総額が平成12年以来5年振りに1,000億円を下回り、企業倒産の沈静化傾向が進んだ。また、中小企業の業況についても、製造業、非製造業ともに改善傾向で推移した。

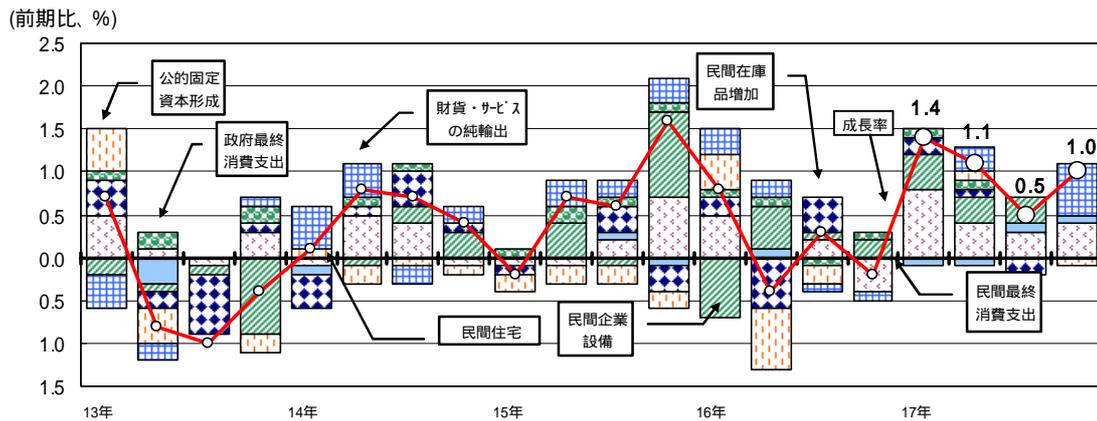
以上のとおり、平成17年の福島県の県経済は、平成14年1月を谷としたバブル崩壊後3回目の景気回復局面下にあって、所得面の改善の遅れから個人消費は弱含みとなっており、建設需要も低調に推移するなど厳しい状況にあったが、生産活動は増加基調で推移し、雇用も改善基調にあり、企業倒産も沈静化が進むなど、緩やかな回復が続いた。(図3)。

**図1 累積景気動向指数(国)**



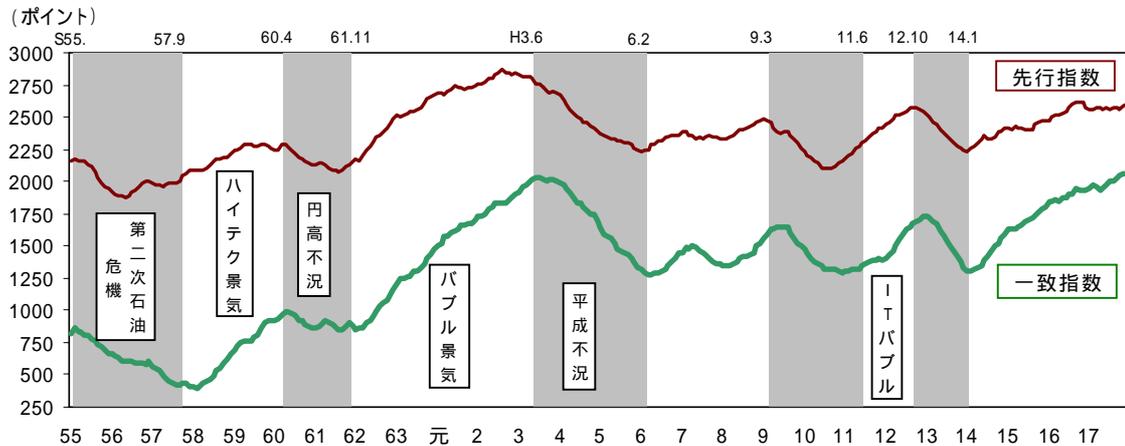
備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」より作成。)  
2 (シャドウの部分は日本経済の景気後退期を示している。)  
3 (比較のため、先行指数に+5000加算している。)  
4 (各景気の名称は正式なものではなく通称を付したものである。)

**図2 国内総生産(GDP)成長率及び寄与度(実質、季節調整系列)**



備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「需要項目別時系列表データ(連鎖方式)」より作成)  
2 (平成12暦年連鎖価格)  
3 (93SNA)

**図3 累積景気動向指数(県)**



備考 1 (福島県情報統計領域「福島県景気動向指数」より作成。)  
2 (シャドウの部分は福島県経済の景気後退期を示している。)  
3 (比較のため、先行指数に+2000加算している。)  
4 (各景気の名称は正式なものではなく通称を付したものである。)

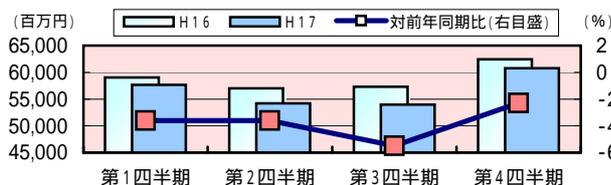
## 主要経済指標の概要

**個人消費** 変化方向 一部に明るい動きもみられたが、全体として弱含みとなった。

- (1) **大型小売店販売額**は総額2,265億円(全店舗ベース)、対前年比(既存店ベース)3.7%となり、8年連続で前年を下回った。 詳細は、P11に掲載

(単位:百万円、%)

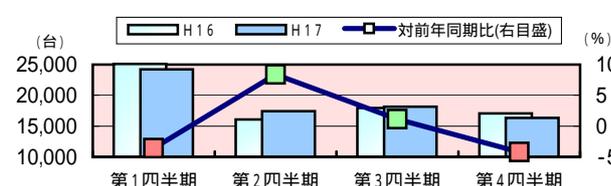
	販売額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	57,647	-3.6
第2四半期	54,168	-3.6
第3四半期	53,934	-5.5
第4四半期	60,776	-2.3
H17年	226,525	-3.7



- (2) **乗用車新規登録台数**は76,100台、対前年比0.1%となり、5年連続で前年を下回った。 詳細は、P13に掲載

(単位:台、%)

	登録台数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	24,229	-3.6
第2四半期	17,401	8.4
第3四半期	18,124	1.1
第4四半期	16,346	-4.2
H17年	76,100	-0.1

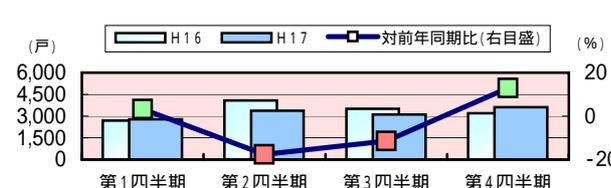


**建設需要** 変化方向 公共部門は低調に推移し、民需部門は後半にかけて増加した。

- (1) **新設住宅着工戸数**は12,858戸、対前年比4.6%となり、9年連続で前年を下回った。 詳細は、P15に掲載

(単位:戸、%)

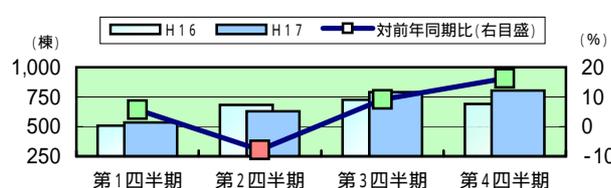
	着工戸数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	2,771	3.2
第2四半期	3,365	-17.7
第3四半期	3,101	-11.4
第4四半期	3,621	13.0
H17年	12,858	-4.6



- (2) **業務用建築物着工棟数**は2,759棟、対前年比5.9%となり、3年連続で前年を上回った。 詳細は、P17に掲載

(単位:棟、%)

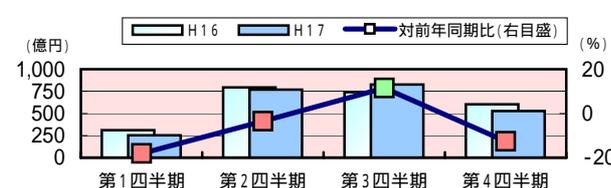
	着工棟数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	536	5.7
第2四半期	628	-7.9
第3四半期	791	9.1
第4四半期	804	16.2
H17年	2,759	5.9



- (3) **公共工事請負金額**は2,373億円、対前年比3.1%となり、6年連続で前年を下回った。 詳細は、P19に掲載

(単位:億円、%)

	請負金額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	253	-18.1
第2四半期	768	-3.6
第3四半期	826	11.5
第4四半期	526	-12.7
H17年	2,373	-3.1



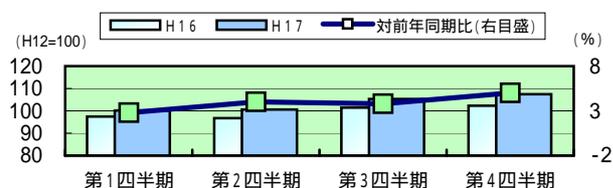
生産活動 変化方向 増加基調で推移した。

(1) **鉄工業生産指数**は103.4、対前年比3.9%となり、3年連続で前年を上回った。

詳細は、P21に掲載

(単位: H12=100、%)

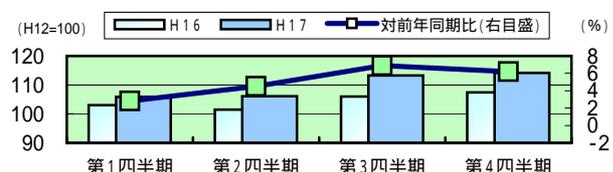
	生産指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	100.1	2.8
第2四半期	100.6	4.0
第3四半期	105.3	3.8
第4四半期	107.4	5.0
<b>H17年</b>	<b>103.4</b>	<b>3.9</b>



**鉄工業出荷指数**は109.9、対前年比5.2%となり、4年連続で前年を上回った。

(単位: H12=100、%)

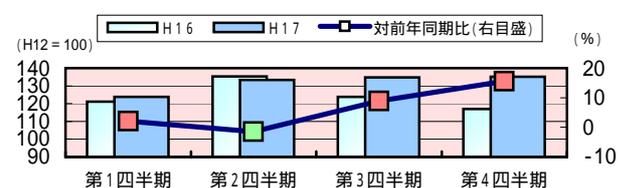
	出荷指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	105.9	2.8
第2四半期	106.1	4.5
第3四半期	113.3	6.9
第4四半期	114.1	6.2
<b>H17年</b>	<b>109.9</b>	<b>5.2</b>



**鉄工業在庫指数**は135.2、対前年比15.6%となり、2年振りに前年を上回った。

(単位: H12=100、%)

	在庫指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	123.8	2.1
第2四半期	133.3	-1.5
第3四半期	134.8	8.9
第4四半期	135.2	15.6
<b>H17年</b>	<b>135.2</b>	<b>15.6</b>

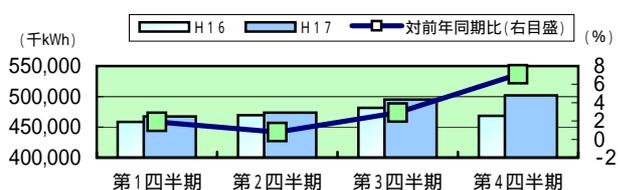


(2) **大口電力使用量**は約5,813百万kWh、対前年比3.2%となり、7年連続で前年を上回った。

詳細は、P25に掲載

(単位: 千kWh、%)

	使用量	対前年同期比 対前年比
第1四半期	467,389	1.9
第2四半期	473,502	0.8
第3四半期	495,158	2.9
第4四半期	501,768	7.1
<b>H17年</b>	<b>5,813,450</b>	<b>3.2</b>



(四半期値は、月値の平均値)

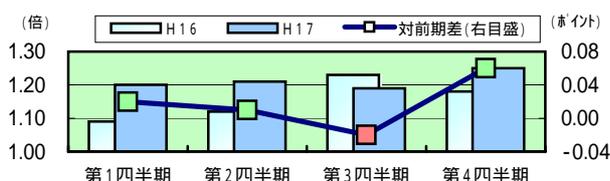
- 備考 1 指標名が**緑字**の場合には、前年より指標が改善したことを表し、指標名が**赤字**の場合には、前年より指標が悪化していることを表しています。
- 2 ■ 図が左図の色の場合は、年ベースで見た場合に前年より指標が改善したことを表し ■ 図が左図の色の場合には、前年より指標が悪化したことを表しています。
- 3 — 図中の折れ線グラフの色が左図の場合には、四半期ベースで見た場合に前年同期(前期)より指標が改善したことを表し — 図中の折れ線グラフの色が左図の場合には、前年同期(前期)より指標が悪化したことを表しています。

雇用・労働 変化方向 **雇用は改善基調にあった。労働は足踏み状態がみられた。**

(1) **新規求人倍率(原指数)**は1.21倍、前年差0.06ポイント上昇し、3年連続で前年を上回った。 詳細は、P27に掲載

(単位:倍、ポイント)

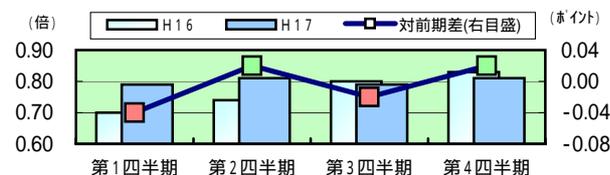
	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	1.20	0.02
第2四半期	1.21	0.01
第3四半期	1.19	-0.02
第4四半期	1.25	0.06
<b>H17年</b>	<b>1.21</b>	<b>0.06</b>



(2) **有効求人倍率(原指数)**は0.80倍、対前年差0.03ポイント上昇し、3年連続で前年を上回った。 詳細は、P29に掲載

(単位:倍、ポイント)

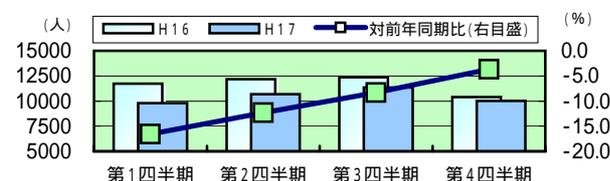
	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	0.79	-0.04
第2四半期	0.81	0.02
第3四半期	0.79	-0.02
第4四半期	0.81	0.02
<b>H17年</b>	<b>0.80</b>	<b>0.03</b>



(3) **雇用保険受給者実人員**は10,455人、対前年比 10.4%となり、3年連続で前年を下回った。 詳細は、P29に掲載

(単位:人、%)

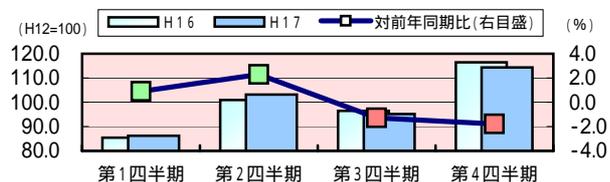
	受給者実人員	対前年同期比 対前年比
第1四半期	9,795	-16.6
第2四半期	10,682	-12.3
第3四半期	11,340	-8.3
第4四半期	10,003	-3.7
<b>H17年</b>	<b>10,455</b>	<b>-10.4</b>



(4) **現金給与総額指数**は99.7、対前年比 0.1%となり、3年振りに前年を下回った。 詳細は、P33に掲載

(単位:H12=100、%)

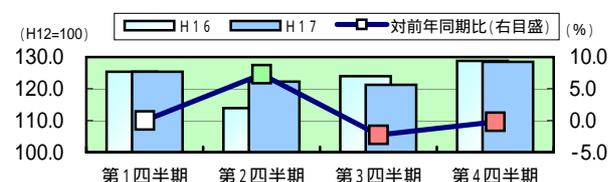
	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	86.2	0.9
第2四半期	103.2	2.3
第3四半期	95.1	-1.3
第4四半期	114.4	-1.8
<b>H17年</b>	<b>99.7</b>	<b>-0.1</b>



(5) **所定外労働時間指数**は124.3、対前年比1.1%となり、3年連続で前年を上回った。 詳細は、P33に掲載

(単位:H12=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	125.4	0.0
第2四半期	122.2	7.3
第3四半期	121.2	-2.3
第4四半期	128.5	-0.2
<b>H17年</b>	<b>124.3</b>	<b>1.1</b>

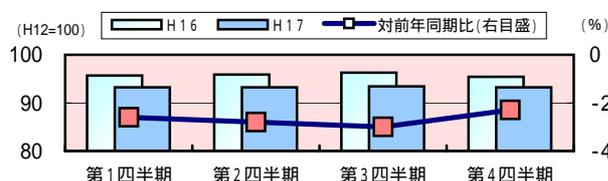


(6) **常用雇用指数**は93.3、対前年比 2.6%となり、7年連続で前年を下回った。

詳細は、P35に掲載

(単位: H12=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	93.2	-2.6
第2四半期	93.2	-2.8
第3四半期	93.4	-3.0
第4四半期	93.2	-2.3
H17年	93.3	-2.6

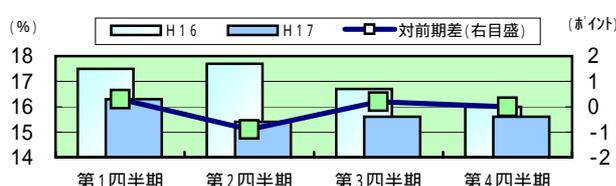


(7) **パートタイム労働者比率**は15.7%、対前年差 1.3ポイントとなり、5年振りに前年を下回った。

詳細は、P35に掲載

(単位: %, ポイント)

	労働者比率	対前期差 対前年差
第1四半期	16.3	0.3
第2四半期	15.4	-0.9
第3四半期	15.6	0.2
第4四半期	15.6	0.0
H17年	15.7	-1.3



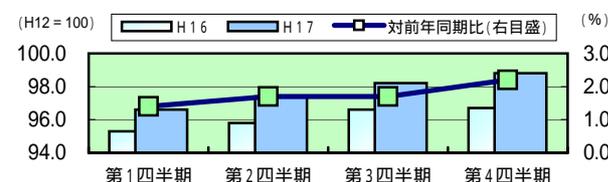
**物 価** 変化方向 **企業物価指数は上昇し、消費者物価指数は横ばいで推移した。**

(1) **国内企業物価指数**は97.7、対前年比1.7%となり、2年連続で前年を上回った。

詳細は、P37に掲載

(単位: H12=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	96.6	1.4
第2四半期	97.4	1.7
第3四半期	98.2	1.7
第4四半期	98.8	2.2
H17年	97.7	1.7

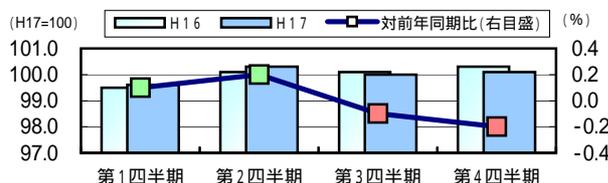


(2) **福島市消費者物価指数**は100.0、対前年比0.0%となり、前年と同水準となった。なお、「生鮮食品を除く総合」は100.0、対前年比0.1%となり、7年振りに前年を上回った。

詳細は、P39に掲載

(単位: H17=100, %)

	指数	対前年同期比 対前年比
H17.3月	99.6	0.1
H17.6月	100.3	0.2
H17.9月	100.0	-0.1
H17.12月	100.1	-0.2
H17年	100.0	0.0



**企業関連** 変化方向 **収益は改善が続き、企業倒産は沈静化の方向へ進んだ。**

- (1) **全産業の経常損益** (日本銀行福島支店「全国企業短期経済観測調査 福島県分」の調査結果より)は5.9%となり、4年連続で増益となった。 詳細は、P41に掲載

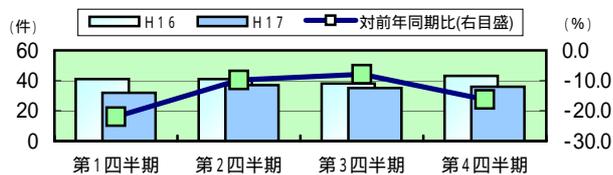
(単位: %)

	対前年比
H17年	5.9

- (2) **企業倒産件数**は140件、対前年比 14.1%となり4年連続で前年を下回った。 詳細は、P43に掲載

(単位: 件, %)

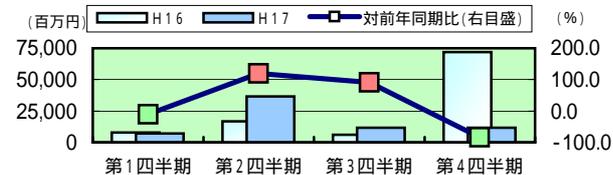
	件数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	32	-22.0
第2四半期	37	-9.8
第3四半期	35	-7.9
第4四半期	36	-16.3
H17年	140	-14.1



**企業倒産負債総額**は672億100万円、対前年比 34.6%となり、平成12年以来5年振りに1,000億円を下回った。

(単位: 百万円, %)

	負債総額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	7,178	-10.0
第2四半期	36,530	119.3
第3四半期	11,821	90.7
第4四半期	11,672	-83.8
H17年	67,201	-34.6

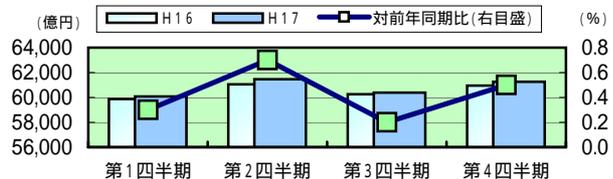


**金融** 変化方向 **金融機関預貸残高は、前年を上回った。**

- (1) **金融機関預金残高**は総額6兆1,254億円、対前年比0.5%となり、3年連続で前年を上回った。 詳細は、P47に掲載

(単位: 億円, %)

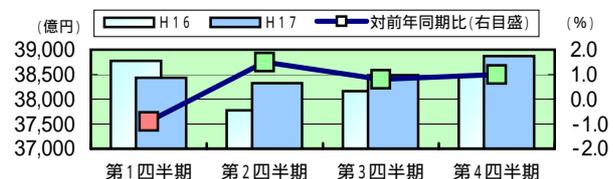
	預金残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	60,068	0.3
第2四半期	61,468	0.7
第3四半期	60,387	0.2
第4四半期	61,254	0.5
H17年	61,254	0.5



**金融機関貸出残高**は総額3兆8,873億円、対前年比1.0%となり、4年振りに前年を上回った。

(単位: 億円, %)

	貸出残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	38,432	-0.9
第2四半期	38,321	1.5
第3四半期	38,486	0.8
第4四半期	38,873	1.0
H17年	38,873	1.0

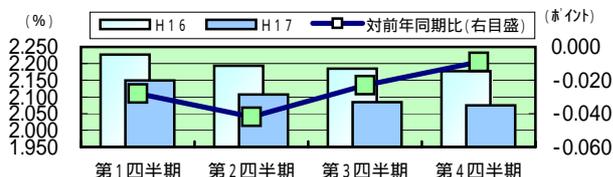


(2) **貸出約定平均金利**は地方銀行で2.075%、対前年差0.102ポイント低下となった。

詳細は、P49に掲載

(単位: %、ポイント)

	金利	対前期差 対前年差
第1四半期	2.149	-0.028
第2四半期	2.107	-0.042
第3四半期	2.084	-0.023
第4四半期	2.075	-0.009
H17年	2.075	-0.102



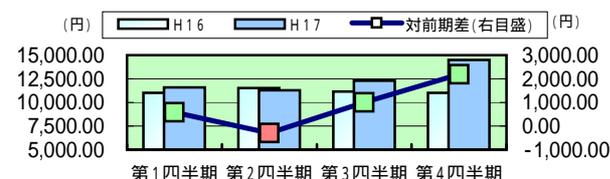
市場 **回復を続けた。**

(1) **東証一部日経平均株価**(225種、期中平均値)は12,422円58銭、対前年差1,243円33銭高となり、2年連続で前年を上回った。

詳細は、P51に掲載

(単位: 円)

	株価	対前期差 対前年差
第1四半期	11,594.48	577.99
第2四半期	11,300.63	-293.85
第3四半期	12,295.87	995.23
第4四半期	14,489.91	2,194.04
H17年	12,422.58	1243.33

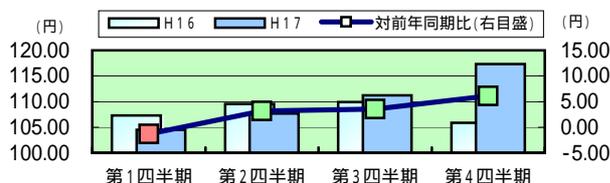


(2) **東京外国為替市場の円相場**(対米ドル、期中平均値)は113円26銭、対前年差5円77銭高となり、2年振りに円安となった。

詳細は、P51に掲載

(単位: 円)

	円相場	対前期差 対前年差
第1四半期	104.51	-1.34
第2四半期	107.68	3.17
第3四半期	111.22	3.54
第4四半期	117.31	6.10
H17年	113.26	5.77



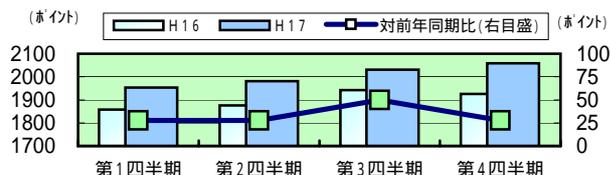
景気動向指数 **回復を続けた。**

(1) **福島県景気動向指数(DI)**は、平成14年1月を谷としたバブル崩壊後3回目の景気回復局面を持続した。

詳細は、P53に掲載

(単位: ポイント)

	累積一致指数	対前期差 対前年差
第1四半期	1,953	28
第2四半期	1,981	28
第3四半期	2,031	50
第4四半期	2,058	28
H17年	2,058	133



(年値は年末値)